

分析美学の諸問題

Problems of Analytic Aesthetics

- ① 美学(芸術学)の目的
- ② 芸術の定義
- ③ 作品と解釈
- ④ 美の定義
- ⑤ 美の論理学?
- ⑥ 美と意識
- ⑦ 美的と倫理的
- ⑧ 対象化
- ⑨ 情報美学
- ⑩ ジャンル
- ⑪ 進化美学
- ⑫ メタ芸術
- ⑬ 虚構
- ⑭ 観測選択効果(1)
- ⑮ 観測選択効果(2)

第11章 進化美学

美……自然種か名目種か

美の認知と特定の脳神経状態とが常に相伴うことが発見されたら？

必要十分条件の事実的発見は美の定義に貢献するか？

概念的な可能性(他の神経状態との相関、または相関する神経状態の不在)をどれほど尊重すべきか？ cf. 「痛み」の固定指示

芸術……自然種か名目種か 人間以外の動物に芸術活動はあるか？

ex. ニワシドリのあずまや、チンパンジーの絵

芸術の起源の進化論的研究は、芸術の歴史主義的定義を前提するか？

起源を異にする「芸術的」活動が発見された場合、芸術と認めるべきか？

cf. 「虎」「水」の固定指示

美や芸術の自然科学的基盤が発見されたとき、美や芸術の現象的・文化的性質の解釈・評価に影響が及ぶか(及ぶべきか)

cf. 自然主義の誤謬 未決問題からの議論

快(適応)と美と芸術的価値

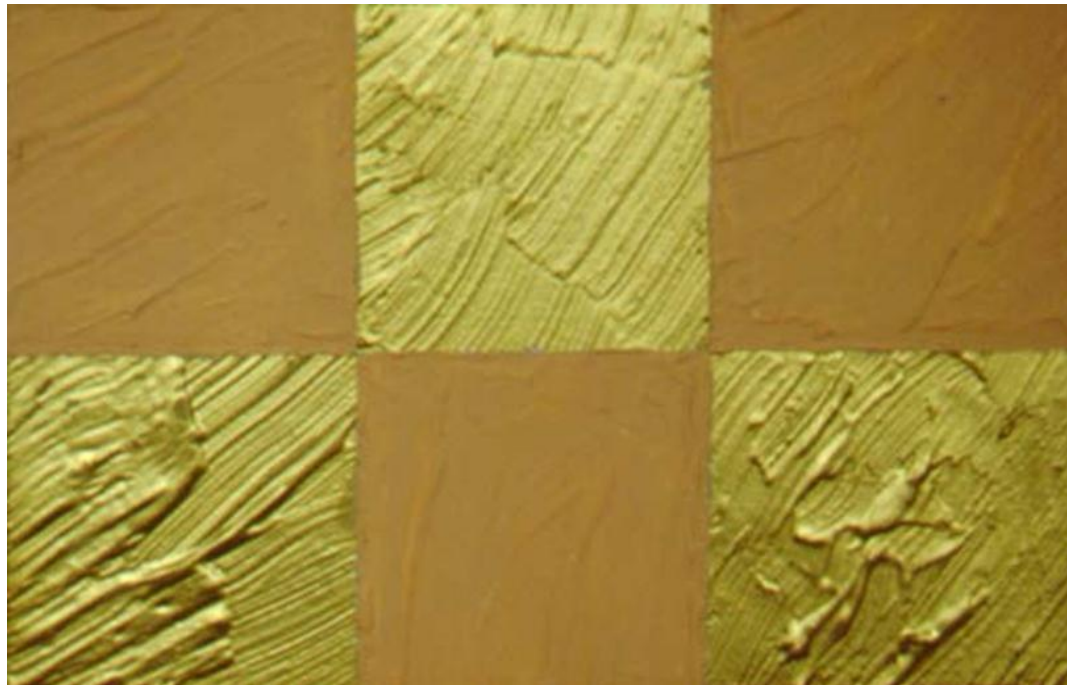
cf. Komar & Melamid: The Most Wanted Paintings on the Web

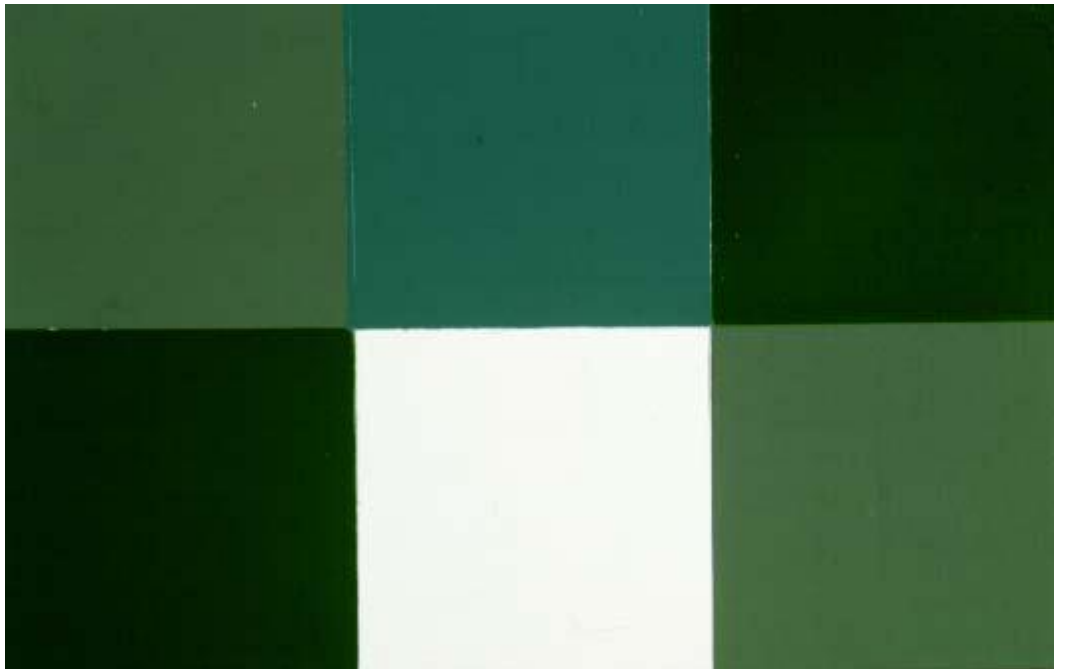
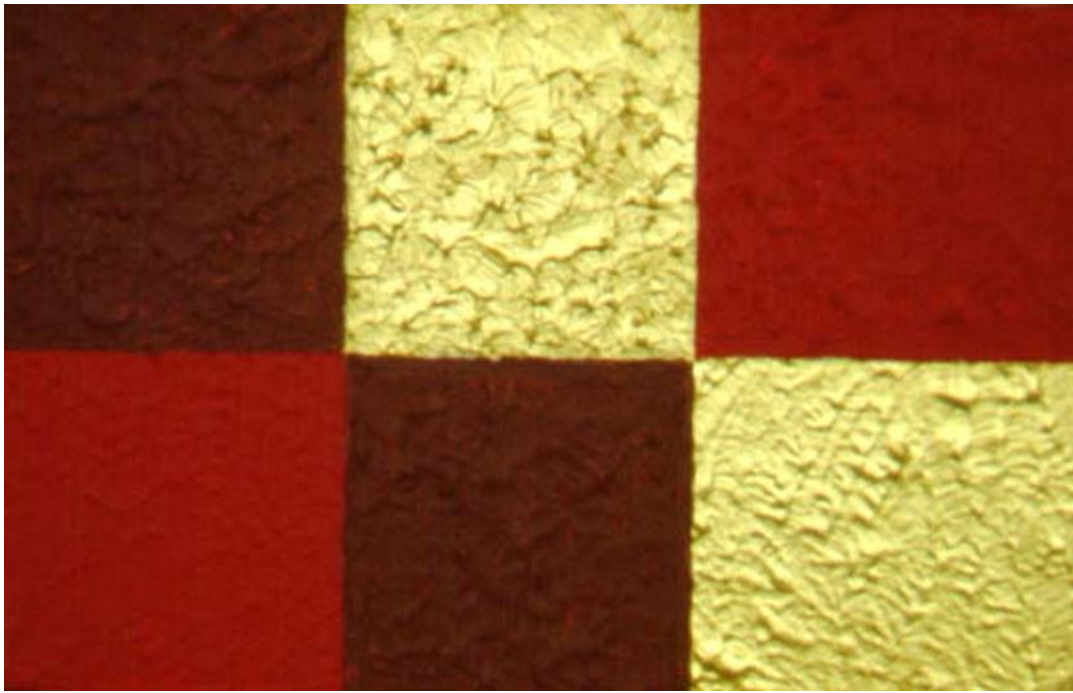
<http://awp.diaart.org/km/>

←次頁～の絵についてはここを参照









美、芸術、適応の関係の変遷(の可能性)

- ① 芸術美 \subseteq 適応
- ② 芸術美 \subseteq 適応度指標
- ③ 芸術美 \subseteq 前適応
- ④ 芸術美 \subseteq 多面発現
- ⑤ 芸術美 \subseteq 反適応
- ⑥ 芸術美 \sim 〈美から倫理へ〉
- ⑦ 芸術美 \sim 〈美から創造性へ〉
- ⑧ 芸術美 \sim 〈美から独創性へ〉
- ⑨ 芸術美 \sim 〈美から知へ〉
- ⑩ 芸術美 \sim 〈美から俗へ〉
- ⑪ 芸術美 \ni 芸術の理念
- ⑫ 芸術美 \supseteq 芸術の理念
- ⑬ 芸術美 $=$ 芸術の理念
- ⑭ 芸術美 \subseteq 芸術の理念
- ⑮ 芸術美 \in 芸術の理念

見かけ上反適応的な芸術を適応主義的に説明するには……

- ・顕示的消費(ハンディキャップ原理)
- ・装飾形質(ランナウェイ効果)
- ・創造性の多面発現(個体内・個体間)
- ・統合失調・幻視能力の前適応
- ・包括適応度(ミーム)
- ・規則功利主義
- ・観測選択効果(私は特別な存在である)
意識による(必要条件)
時間・機会数による(コペルニクス原理)
知性・情報処理能力による
内省度による
主題による
- ・ウルトラファインチューニングの非蓋然性
(私は特別な存在の中では平凡である)
コペルニクス原理

進化心理学の理屈を学ぶための通俗的な(ただし学術的裏付けのある)参考問題

- Q1 なぜ人間の脳は巨大化できたのか？(200万年で3倍という驚異的な速度で？)
- Q2 女が恋愛や性について男より慎重なのはなぜか？
- Q3 男の子が女の子より危険な遊びを好むのはどうしてか？
- Q4 デートの時に多く金を出すのはなぜ男なのか？
- Q5 女の方が記念日を重視するのはなぜか？
- Q6 歴史上、芸術家の大多数が男だったのはどうしてか？
- Q7 ポルノや売春の買い手がほとんど全員男なのはどうしてか？
- Q8 ホモセクシュアルの男がヘテロの男より性経験の相手が多いのはなぜか？
- Q9 エディプス・コンプレックスが人間の本能だという説が間違っている進化論的理由は？
- Q10 オスカー・ワイルドの言葉「男は女の最初の恋人でありたいと願う。女は男の最後の恋人でありたいと願う」は、真実を言い当てているか？
- Q11 男女どちらの方が、嫉妬心が強いだろうか？
- Q12 容姿が優れているほど性体験の相手が多いというのは、男女どちらにあてはまるか？
- Q13 社会的・経済的地位の高い家庭、低い家庭に生まれる赤ちゃんの性別はそれぞれどちらに偏るか？
- Q14 一夫多妻から一夫一妻への移行は、男と女のどちらにとって恵みとなったか？
- Q15 人間以外の動物にレイプはみられるか？(レイプは性差別を維持するための政治的装置なのか？)
- Q16 三大人種(ネグロイド、コーカソイド、モンゴロイド)を、双子の生まれやすい順に並べよ。その理由は？

(参考) 生物進化を芸術作品かのように解釈すれば……

意味情報(構造、論理) 美的情報(組織、肌理)

内容
個性
伝える

メッセージ
生命の偶然性
選ぶ

パフォーマンス
適応放散
創る

形式
一般性
使う

デザイン
大進化、大絶滅
創る

スタイル
生態系、DNA
選ぶ

(参考) 生物進化論を芸術作品かのように解釈すれば……

意味情報(構造、論理) 美的情報(組織、肌理)

内容

メッセージ

機械論、還元主義

選ぶ

パフォーマンス

論争、応用

創る

個性

伝える

形式

デザイン

変異、遺伝、選択

創る

スタイル

生物学、歴史学

選ぶ

一般性

使う

文献

ジェフリー・F. ミラー『恋人選びの心』I、II 岩波書店

Eckart Voland , Karl Grammer eds. *Evolutionary Aesthetics* (Springer, 2003)

Vladimir Petrov, Colin Martindale, Paul Locher eds, *Evolutionary And Neurocognitive Approaches to Aesthetics, Creativity And the Arts* (Baywood, 2007)

Denis Dutton *The Art Instinct* (Bloomsbury Press, 2010)

Vitaly Komar, Aleksandr Melamid, Joann Wypijewski eds. *Painting by Numbers: Komar and Melamid's Scientific Guide to Art* (Farrar Straus & Giroux , 1997)

ジョン・H. カートライト『進化心理学入門』(2001)新曜社

ソースティン・ヴェブレン『有閑階級の理論——制度の進化に関する経済学的研究』(1899)
ちくま学芸文庫

リチャード・ドーキンス『神は妄想である』(2006)早川書房

ダニエル・デネット『ダーウィンの危険な思想』(1995)青土社

ソール・A. クリプキ『名指しと必然性——様相の形而上学と心身問題』(1980)産業図書

参考問題のための文献

リチャード・ドーキンス『利己的な遺伝子』(紀伊國屋書店)

スティーブン・ピンカー『人間の本性を考える』(上)(中)(下)(NHK出版)

ジョン・オルコック『社会生物学の勝利』(新曜社)

マット・リドレー『赤の女王』(翔泳社)

キングズレー・ブラウン『女より男の給料が高いわけ』(新潮社)

スーザン・ピンカー『なぜ女は昇進を拒むのか』(早川書房)

キャスリン・サーモン、D. サイモンズ『女だけが楽しむ「ポルノ」の秘密』(新潮社)

デヴィッド・M. バス『女と男のたましあい』(草思社)

ランディ・ソーンヒル、クレイグ・パーマー『人はなぜレイプするのか』(青灯社)

坂口菊恵『ナンパを科学する――ヒトのふたつの性戦略』(東京書籍)

M. デイリー、M. ウィルソン『シンデレラがいじめられるほんとうの理由』(新潮社)

マーティン・デイリー、マーゴ・ウィルソン『人が人を殺すとき』(新思索社)

J. フィリップ・ラシュトン『人種 進化 行動』(博品社)